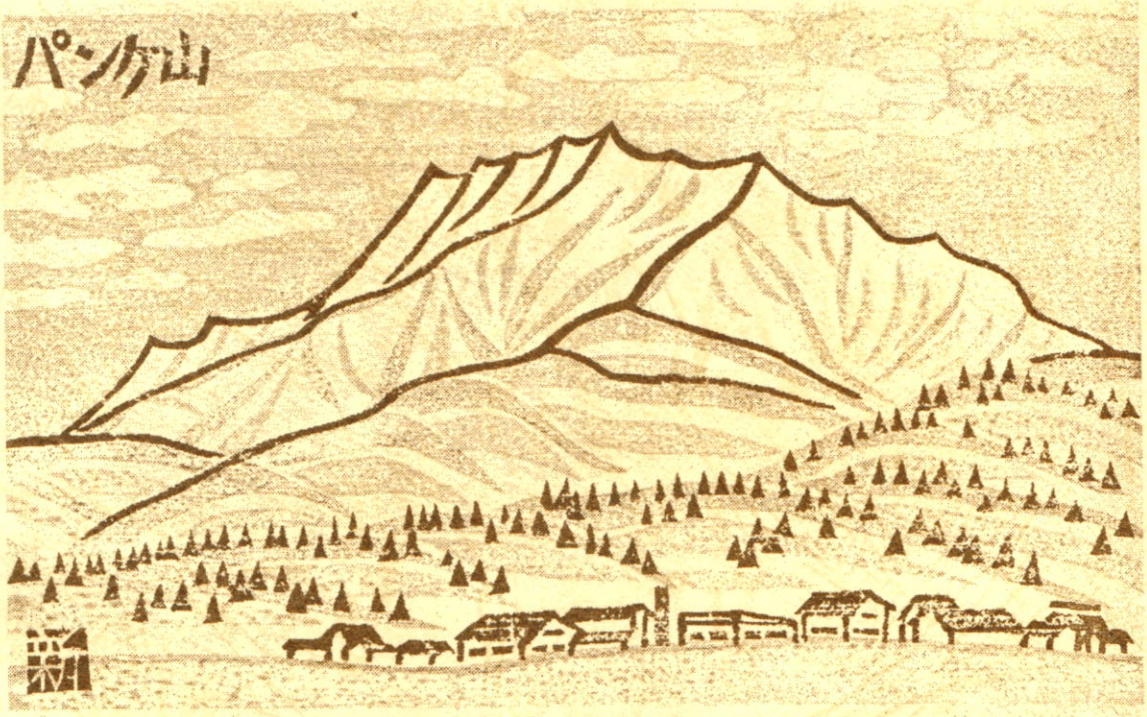


I S S N - 1340 - 7368

(社)日本雪氷学会北海道支部機関誌

北海道の雪氷

第21号



2002年 8 月

発行 (社)日本雪氷学会北海道支部

目次

巻頭言	1
2002年度研究発表会発表論文	2
2001年度事業報告	71
2001年度会計報告	73
2002年度事業計画	74
2002年度会計計画	75
2002年度北海道支部役員名簿	76
日本雪氷学会と道内関係機関のホームページ	77
社団法人日本雪氷学会北海道支部規約	78

(表紙 画：斉藤新一郎、題字：福沢卓也)

巻 頭 言

支部幹事長 西村浩一（北大低温科学研究所）

昨年度の冬は2001年12月上旬に1mにも達する記録的な大雪が降ったのち、今度は一転して暖冬少雪というきわめて大きな振れ幅で経過いたしました。2002年1月20日すぎの大雨にも驚かされました。これらが地球温暖化の影響か否かはともかくとして、雪氷災害にも質的变化があらわれていることは確かなようです。我々の研究姿勢もこうした自然の変化にフレキシブルに対応していく必要があります。

さてその研究活動の基盤となるべき学会は、今多くの問題を抱えております。今日の日本が直面している経済不況や財政赤字とそれに基づく閉塞感、そのまま雪氷学会の現況にもあてはまるようです。支部財政もかなりひっ迫した危機的な状況にあり、このままでは数年後の活動費がゼロということにもなりかねません。財政再建に向け、本部理事の方々を中心に種々の方策が議論されているようですが、是非早急な解決を期待したいものです。

一方、北海道支部の活動状況はどうかと申しますと、他支部と比較いたしまして必ずしも活発であるとは言い切れなようです。研究発表会、地方講演会等の恒例行事は関係者の方の御尽力、御協力により途切れることなく続いてまいりましたが、はたしてそれだけで一般会員の方にも魅力的な学会となっているかは議論が必要なところではあります。北海道支部には雪氷研究で中心的な活躍をされ、学会賞を授与された方が数多くいらっしゃいますが、必ずしも支部会の活動に積極的に参加されていない現状は大変残念なことです。研究の細分化も一因かと思われそうですが、地域への積極的な貢献を是非お願いしたいと思います。我々の偉大な先輩である中谷宇吉郎先生も「風土にあった研究・役に立つ研究を大切にしないといけない」というのが口癖であったと聞いております。

クリエイティブイルネス（創造の病）という言葉をご存知でしょうか。エレンベルガーが、精神分析で有名なフロイトやユングを研究するなかで、「二人とも完全に病気であったが、その混乱状態を本人が克服して統合することで、壮大なクリエイションが起こり、結果として学問体系が出来上がった。これをクリエイティブイルネスと言っても良いのではないか」という説を「無意識の発見」という著書の中で唱えたのです。その後も大発見、大発明、優れた芸術作品や文学作品は、病が治っていく過程で生まれてくることが多いことが判明し、このクリエイティブイルネスが注目されるようになりました。我々も現在かかえている問題点を前向きに総括し克服していくことで、困難をクリエイティブイルネスへと転換していかなくてはなりません。幸いにも2002年6月12日に開催されました研究発表会には18件の発表があり、参加者も80人をこえるという久方振りの盛況となりました。毎年開催場所探しに頭を悩ませる地方講演会ですが、こちらに関係者のご努力により、数個所の市町村から積極的な問い合わせをいただいております。先月、幹事間の意見交換の場としてメーリングリストを立ち上げました。まだまだ十分に機能してはおりませんが、課題となっているホームページの創設、少ない活動費の中でいかに有効な活動を展開していくか等の問題について議論を始めていきたいと考えております。会員の皆様からも様々な機会を通じ、活発なご意見をお聞かせいただければ幸いです。

2002 年度日本雪氷学会北海道支部研究発表会発表論文 目次

日 時： 2002 年 6 月 12 日（水）10:00～16:00

場 所： 北海道大学学術交流会館 第一会議室

1. 冬期の積雪底面融解量の流域内での不均一性 -----	3
佐藤大輔、山崎学、石井吉之（北大低温研）	
2. 水質及び酸素同位体比からみた多雪山地流域の融雪流出 -----	7
山崎学、石井吉之（北大低温研）	
3. 岩塊斜面の空気対流を示す積雪構造 —北海道中央部、然別火山群山域の例— -----	11
澤田結基（北大大学院地球環境）	
4. モレーン堰き止め氷河湖の形成機構に関する一考察 -----	15
山田知充（北大低温研）、坂井亜規子・内藤 望（名大地球環境研）	
5. サーマルマッピングによる路面凍結要注意箇所の抽出 -----	19
宮本修司、浅野基樹（開発土木研究所）	
6. 雪崩によって生ずる地震動の観測 -----	23
今西伸行（北大低温研）、森谷武男（北大理）、山田知充、西村浩一（北大低温研）	
7. 雪崩危険度判定に関する一考察 -----	27
三好達夫、加治屋安彦、福澤義文、松澤勝、山際祐司（北海道開発土木研究所） 下澤徹也、三岡孝文（アジア航測株式会社）	
8. 各種屋根根材を用いた実大屋根で発生する滑雪の観測 -----	31
千葉隆弘（㈱雪研スノーイーターズ）、小林敏道（（有）コバ建築事務所） 苫米地 司（北海道工業大学建築学科）	
9. 電線表面温度と気象因子の関連調査 -----	35
高山健、守護雅富、岡本誠、大浦久到（北海道電力㈱）	
10. 屋外変電設備の冠雪とその抑制対策効果について -----	39
池田豊、木村宏義、小林雅彦（北海道電力㈱）	
11. 防雪柵の防雪容量に関する基礎研究 -----	42
松沢勝、福沢義文、伊東靖彦、加治屋安彦（開発土木研究所） 阿部正明（北海道開発技術センター）、永田泰浩（日本気象協会）、竹内政夫（雪研 S E）	
12. 道路上における吹雪時の視程と高さの関係 -----	46
松沢勝（開発土木研究所）、竹内政夫、小林利章（日本気象協会）	
13. 排雪害をともしう狩勝峠の盛り土法面へ植栽された木本類の成長経過 -----	50
斎藤新一郎（専大北短大）、鳥田宏行（道立林試）	
14. 海水の成長および融解過程における表面状態とアルベドの変化 -----	54
小嶋真輔（北見工大）、榎本浩之（北見工大／観測フロンティア）	
15. 暗視野照明の顕微鏡によるベントレー式雪結晶写真の撮影法 -----	58
油川英明、尾関俊浩（北教大岩見沢校）、島村 誠（北大低温研）	
16. 氷晶レプリカの簡単な作成方法 -----	62
平松和彦（北海道旭川西高等学校）	
17. 衛星データによる準リアルタイム雪氷圏情報の作成 -----	64
荻野裕司、伊賀久晃（北見工大）、榎本浩之（北見工大／観測フロンティア）	
18. 気温測定用通風筒の温度特性と問題点 -----	67
佐藤研吾、高橋修平、亀田貴雄（北見工大）	